令和元（２０１９）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No. 19（R元. 9. 25発行）文責 校長 福田雅也

特別支援教育は「特別」でしょうか…？

最近、聞いた講演会で「未来の教室」という言葉に出会いました。これは、経済産業省が進めている事業に位置付けられているもので、「AIや動画、オンライン会話等のデジタル技術を活用した教育技法であるEdTech（エドテック）を活用し、人の創造性や課題解決力を育み、個別最適化された新しい教育をいかに作り上げるか」について検討しているものだそうです。講演の中では、その取組を行っている学校の様子も動画で見ることができました。とりあえず目指すゴールは小学校の学習指導要領の内容を身に着けることですが、発展的な学習も可能のようでした。学級の時間割は無く、それぞれの児童が自分のその日の学習計画を立て、整備されたＩＣＴ環境を活用し、お互いに教えあいながら主体的に学習を進めていました。

私は、この動画を見ながら、未来の教育の姿を感じつつも、「特別支援教育」のことも考えていました。

話は少し変わりますが、私は、常日頃から「特別支援教育」の「特別」という言葉にとても違和感を感じています。

教育の場面での「支援」には様々な内容があります。御船町も推進しているICT活用。これも、すべての子どもたちが理解を深めるために、御船町のすべての子どもたちに対して行われる「支援」と考えることができます。担任等がわかりやすく教えるためにつくる教材やプリントも、みんなが理解するための「支援」と言うことができるでしょう。

では、特別支援教育になぜ「特別」という言葉がついているのでしょうか。上に書いたような、教育の中で当然行われている「支援」に、「特別」がついているのです。

特別支援教育は、すべての子どもたちの様々な実態やニーズに合わせ、個に応じた支援が行われるものです。ですから、特別支援学級では、通常学級の授業より一歩踏み込んだ支援により、丁寧な指導が行われています。そして、特別支援教育は、特別支援学校や特別支援学級だけで行われているのではありません。すべての学級において、可能な範囲で個に応じた支援が行われています。これらもすべて特別支援教育の視点から行われているのです。

学習場面では、様々な子どもたちが困っている状況があります。しかし、それらの子どもたちは、一歩踏み込んだ支援により、理解を深めることができる可能性があるのです。本校の「なかよし教室」、そしてすべての学級で、そのような温かな授業が展開されています。お聞きになったことがあるかと思いますが、「障がい」は「個性」と捉える考え方が浸透してきています。これらのことから考えると、特別支援教育の「特別」という言葉は、「その子の個性に合わせた、一歩踏み込んだ」教育と言い換えることができるのではないでしょうか。

ここで最初の話に戻りますと、私が動画を見ながら、「特別支援教育」のことを考えていたのは、「未来の教室」が「個別最適化」された教育だったからです。未来の教育の姿を求めつつも、その内容は「その子の個性に合わせた、一歩踏み込んだ」教育だと感じたからなのです。

「未来の教室」は特別支援教育の視点から行われているものではありません。しかし、私が感じたように、特別支援教育に通じるものがあるのなら、特別支援教育はますます特別ではないと思えた講演会でした。